

2

学ぶ意欲はどう形成されるのか

学ぶ意欲をはぐくむために、教師は授業をはじめとする様々な場面で、児童生徒に対し、いろいろな働きかけをしています。児童生徒の実態に応じて、より効果的に働きかけるには、学ぶ意欲を構成する要素や学ぶ意欲が育つプロセスに注目する必要があります。

右頁の図は、学ぶ意欲の構成要素や学ぶ意欲が育っていくプロセスを模式的に表したものです。学ぶ意欲をはぐくむ上で土台となるのが「安心して学べる環境」です。学ぶ意欲が発現するプロセスには、「欲求・動機」レベル、「学習行動」レベル、「認知・感情」レベルの三つのレベルがあります。

「安心して学べる環境」のもとで、「知的好奇心」「有能さへの欲求」「向社会的欲求」の欲求・動機が、具体的な学習行動として表れ、その結果として、「おもしろさ・楽しさ」「有能感」「充実感」の認知・感情が生じます。この「認知・感情」は、新たな「欲求・動機」「学習行動」につながります。このように、「安心して学べる環境」のもとで、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」が循環し、学ぶ意欲が育っていきます。

したがって、学ぶ意欲をはぐくむには、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスにおける教師の意図的な働きかけが重要となります。

本冊子において、「働きかけ」とは、授業の構想、学習方法、指導方法、言葉かけと、とらえています。

コラム

「独立達成」と「協同学習」について

「独立達成」とは、自分の潜在的な能力を開花させるために、できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動です。どうしても一人の力で解決できないときは、教師や友達、保護者等のサポートが必要です。

「協同学習」とは、「向社会的欲求」の影響を強く受けている学習行動です。自分だけでは解決できない問題でも、友達等と協力すれば解決できることもあります。そこで、協力の重要性や学習の効率性の面において、「協同学習」は近年、重要な学習方法として位置付けられるようになりました。

一見、相反する構成要素のように感じられる「独立達成」と「協同学習」ですが、これらを組み合わせ、繰り返すことで、学習の深まりが期待できるのです。



[各構成要素の解説]

レベル	構成要素	解説
認知・感情	おもしろさ・楽しさ	結果に依存しない感情で、失敗したとしても感じる事ができ、知的な好奇心が活性化していれば得られる感情。
	有能感	学習行動がうまくいったとき、成功したときに感じる事が多い感情。ほめられることにより、高まることもある。
	充実感	向社会的欲求に基づく動機が達成された場合に感じる事ができる感情。
学習行動	情報収集	主に知的な好奇心によって、興味・関心のあることについて情報を集める行動。
	自発学習	自ら進んで学習に取り組んだり、計画を立てて学習をしたりする行動。
	挑戦行動	今よりも少し難しい問題に挑戦する行動。
	深い思考	問題の解決法を複数考えたり、よりよい解決法を考えたり、仮説や考えを自分なりに吟味したりする行動。
	独立達成	できるだけ自分一人の力で問題を解決しようとする行動。
	協同学習	友達と協力して問題を解決する行動。
欲求・動機	知的な好奇心	未知のことや珍しいことに興味・関心をもち、それらを探究したいという欲求。
	有能さへの欲求	より有能になりたい、より賢くなりたいという欲求。
	向社会的欲求	社会や人のためになりたいという欲求。思いやりの気持ちとも関連する。